

台湾現地学習の探究化

—「総合的な学習の時間」としての宿泊を伴う体験学習—

総合的な学習の時間 山本 吉次

(要旨) 平成21年3月、学習指導要領改訂が告示され、「総合的な学習の時間」は総則から取り出されて章立てになり、一層の充実が求められた。本校では、新学習指導要領で明示された目標に沿うべく、「総合的な学習の時間」として実施している台湾現地学習を「探究化」するよう改善した。改善点は、①「自ら課題を見つけ、自ら学ぶ」のみならず「自ら考え、主体的に判断」する学習とする。②事前学習－現地学習－事後学習の一貫化を図る。③生徒の協同性を発揮させる。④「台湾現地学習」全体を通して自己の在り方生き方を考えさせる。である。本稿はその実践報告である。

キーワード：総合的な学習の時間 体験学習 宿泊研修

1. はじめに

平成21年3月、学習指導要領改訂が告示され、「総合的な学習の時間」は総則から取り出されて章立てになり、一層の充実が求められた。目標や内容の不明確、成果の検証・評価方法の不十分、教科との関連についての配慮不十分、指導方法の未確立など、改善すべき課題が少なくない状況であったからである。また、本校の「現地学習」は平成21年度から対象を沖縄から台湾に変更することになった。このような状況の中で、本校の「総合的な学習の時間」をより効果あるものとするとともに、全国の高等学校「総合的な学習の時間」充実に寄与すべく、平成21・22年度国立教育政策研究所「教育課程研究指定校事業」の指定を受けた。

本校は、平成4年度から平成6年度までの3年間、文部省研究開発学校指定を受け「新教科『国際・文化科』の導入を考慮した教育課程の検討」を開発主題として実証的研究を行った。それは、学校教育法施行規則第57条の3に基づく、教育課程の基準改定のために文部省の委嘱を受けて実践した研究であった。

「国際・文化科」は従来の教科の枠を超えて、文

化・文明の在り方をより総合的に考えさせ、主体的問題関心を引きだす突破口となることを願って設置された教科であった。また、「国際・文化科」は身近な問題から世界的な問題まで、生徒一人一人が自分なりの意見を持てるようにするのも大きな目標であった。その意味で、「国際・文化科」は、平成15年度から実施された『高等学校学習指導要領』における「総合的な学習の時間」の設置に寄与できたのではないかと考えている。(本実践研究については「文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書 新教科『国際・文化科』の導入を考慮した教育課程の検討」平成7年3月)

この文部省の研究指定終了後も、総合的・学際的な教科としての完成度を高めるために、「その他特に必要な教科」として本校教育課程表に位置づけ、平成13年度まで継続実施し、様々な取り組みを試みた。平成7年度は中国エリア学習による異文化理解学習、平成8年度はマルチメディアを利用し表現力を重視した探究学習、平成9～13年度は教科「情報」を先取りした「国際情報」、および身近な生活や文化について探究学習を行う「生活文化」を実践した。

また、平成10年度～13年度は、文系生徒対象に「ワークショップ方式選択型自主研究」を実践した。これは、本校各教員がそれぞれの専門性や興味関心に基づいて開講した自主研究講座を、生徒に選択させて探究型学習を行わせる取り組みであった。(平成7年度～平成11年度の取り組みについては、「総合的な学習(『国際・文化科』)に関する実践研究報告書」平成12年3月)

本校では、研究校として、平成15年度実施『高等学校学習指導要領』に基づく教育課程を平成14年度から先行実施した。これにより、「その他特に必要な教科」として実践してきた「国際・文化科」を「総合的な学習の時間」として実施することになった。その内容は次のようなものであった。

第1学年：「総合的な学習の時間」70時間 1・2学期は「生活と社会」、3学期 は「健康と社会」 第2学年：「沖縄現地学習」35時間
--

「生活と社会」は平成13年度までの「生活文化」を踏襲し、身近な生活や文化についてグループ研究を行う取り組みであった。「健康と社会」も探究的学習の方法を取り、健康・医療・衛生・環境などをテーマにしてグループ研究発表を行う取り組みであった。また、「沖縄現地学習」は、事前講義、沖縄エリアの自主研究、沖縄での現地学習、事後レポート作成からなる。

事前学習：教員による授業「沖縄の自然と歴史」 個人テーマに基づくレポート作成 現地学習：班別自主研修を含めた体験・観察 事後学習：現地学習を踏まえたレポート作成

なお、平成19年度からは第1学年の「総合的な学習の時間」は、「生活と社会」のみ70時間で実施している。

2. 「台湾現地学習」の探究化

(1) 台湾現地学習の改善点

平成21年度からは現地学習先を台湾に変更した。

若い時期に「異文化」に直接触れ、翻って「自文化」を再認識することが、生徒の成長や視野の拡大に重要であると考えたからである。しかし、全体の流れは、「沖縄現地学習」を踏襲するものであった。変更点は①外部講師を導入した点、②事前研究レポート作成において同類テーマの生徒でグループ化した点、③事後学習でレポートを冊子にまとめるだけでなくクラス発表会を行った点、であった。

ところが、この段階の「台湾現地学習」は、新「学習指導要領」における「総合的な学習の時間」の目標を十分達成しているものとはいえなかった。たしかにテーマは、事前における教員の授業を踏まえて、生徒が関心に基づいてテーマを設定する。そしてそれについて調査をする。その意味では「自ら課題を見付け、自ら学」んではいる。内容も「横断的・総合的」なものである。しかし、次のような点が不十分であり改善を要するものであった。

第一の改善点は、十分に「探究」型になっていないことであった。これが最大の改善点である。事前レポートは、多くはインターネットで検索しそれに基づいて書かれたものであった。現地学習においても、特にテーマをもって臨まず、探究的な学びになっていなかった。事後学習におけるレポートも、単なる感想文であったり、旅行記であったりし、事前学習や現地学習での学習が活かされたものではなかった。

第二の改善点は、事前学習、現地学習、事後学習に一貫性がないことであった。事前学習で学んだことが現地学習で検証されるわけでもなく、事後学習レポートも、必ずしも事前学習や現地学習と結びついていたものとなっていなかった。

第三の改善点は、十分に協同性が発揮されなかったことである。事前レポートでたまたまテーマが類似のものをグループ化しただけで、その間に友人関係もなく相互の刺激も少なかった。また、この事前レポートグループは、事前のみのグループで、現地

学習におけるグループはまた別のものが編成された。

第四の改善点は、「自己の在り方生き方を考える」学習になっていなかったことである。事後レポートには、確かに新しく得た知見や感動をまとめているものが多かった。しかし、それを自らに内在化し、体験や学習を「自己の在り方生き方」の追究にまでは至っていなかった。

これらを踏まえて平成22年度の「台湾現地学習」は次の点を改善することを課題とした。

- ①「台湾現地学習」を探究化させる。「自ら課題を見つけ、自ら学ぶ」のみならず「自ら考え、主

体的に判断」する学習とする。

- ②事前学習－現地学習－事後学習の一貫化を図る。
③生徒の協同性を發揮させる。
④「台湾現地学習」全体を通して自己の在り方生き方を考えさせる。

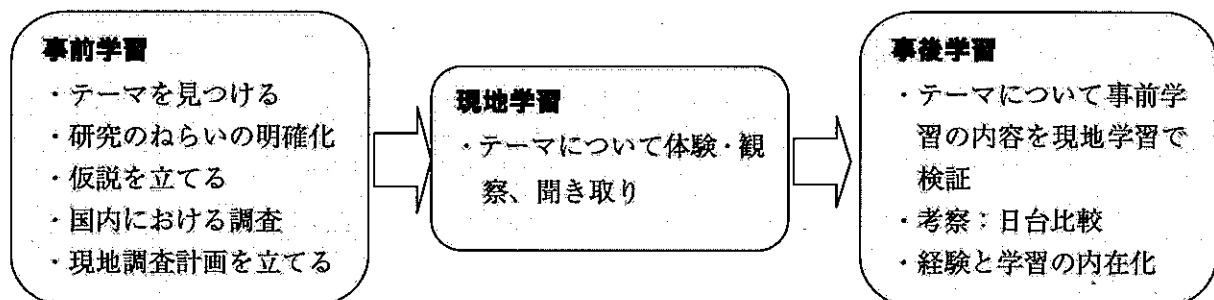
(2) 探究型「台湾現地学習」カリキュラムの流れ

平成22年度「台湾現地学習」の実施表は表1である。現地学習は3月に行うので、実施時期は、1年生2学期後半から2年生1学期にかけてになった。「台湾現地学習」は「事前学習」、「現地学習」、「事後

表1 平成22年度「台湾現地学習」実施表

	月	日	内 容	配時34 h
事前学習	11	5 (木)	外務省職員による高校講座「アジア諸国の現状と日本」	2
	12	17 (水)	「台湾現地学習」の目的および内容について	2
		21 (火)	台湾の歴史・地理・自然について (講義)	2
		24 (金)	「台湾現地学習」グループ分け	1
	1	13 (木)	「事前研究」オリエンテーション	1
		20 (木)	「事前研究」テーマ決定	2
		27 (木)	「事前研究」個別テーマの決定	1
	2	7 (月)	外部講師による講義「台湾の政治・経済と生活」	2
		17 (木)	「台湾事前研究」グループ内発表	2
		24 (木)	「現地学習」班別自主研修計画	2
現地学習	3	21 (月)	「台湾現地学習」直前オリエンテーション	1
		22 (火)	台湾現地学習 4日目「班別自主研修」	8
		26 (土)		
事後学習	3	28 (月)	「台湾現地学習」最終レポートに向けて	1
	4	15 (金)	「台湾現地学習」最終レポート提出	1
		28 (木)	「台湾現地学習」クラス研究発表会 I	2
	5	7 (土)	「台湾現地学習」クラス研究発表会 I	2
		21 (土)	「台湾現地学習」クラス研究発表会 I	2

図1



学習」から構成されている。全体の流れを図式化すると図1のようになる。

このように、テーマを見つけそのテーマに関する国内調査を行う事前学習、テーマについて体験・観察・聞き取りを行う現地学習、テーマについての検証および、日台比較による考察、それらの経験と学習を自己に内在化するという事後学習、これらを生徒が選択したテーマで貫くという形で、学習の一貫性を図った。これにより課題②の改善を図った。

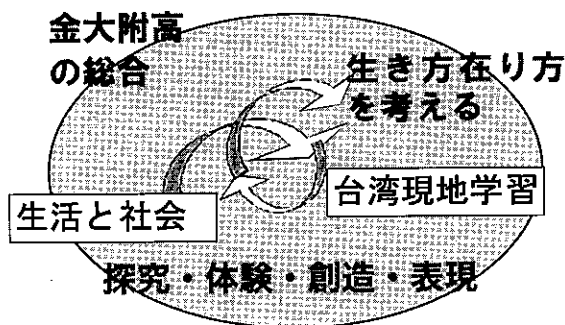
(3) 「総合的な学習の時間」の一貫性

1年生後半からの「台湾現地学習」は、1年生前半に「総合的な学習の時間」で行った「生活と社会」を一連の学習であることを意識させたことも改善点であった。「生活と社会」の方法は「ブレインストーミング」「ディベート」「プランニング対決」と3種類の学習方法を取っている。このうち「プランニング対決」とは、「未来を創造する同一のテーマに対して、2グループが各々のプランをコンペティション(競い合い)する」というプログラムである。内容は、いずれも身近な問題や未来社会を取扱ったものであった。これに対して「台湾現地学習」は異文化を題材とするものである。事前研究オリエンテーショ

ンでは、事前学習では「異文化」の認識、現地学習では「異文化」認識の拡大・深化、事後学習では「異文化」理解の内在化を目的とすることを明確にした。そして、「生活と社会」の学習と「台湾現地学習」の学習を踏まえて「自己の在り方生き方」を考えることが最終目標であることを明示した。

このように「生活と社会」と「台湾現地学習」を一連の学習であるということ生徒に認識させることにより、「台湾現地学習」は単に事実を認識するだけではなく、「生活と社会」同様に、協同性を生かしながら探究型の学習を行うものであること意識させた。これにより課題の①の改善を図った。(「事前研究」オリエンテーション配布資料は資料1)本校の「総合的な学習の時間」をモデル化したものが図2である。

図2 本校の総合的な学習の時間

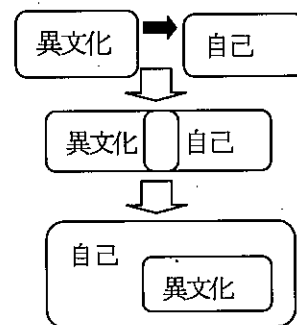


資料1 総合的な学習の時間 「台湾現地学習」事前研究に向けて

2010. 1. 13

1. 総合的な学習の中での「台湾現地学習」

	方法	メソッド	内容	形体	目標
生活と社会	ブレスト ディベート	ポスター 口頭発表	身近な問題	グループ	根拠をもって 主張
	プランニ ング	プレゼン テーション	未来や社会に 関わること	グループ	根拠をもって 主張+創造
台湾現地 学習	事前研究	レポート 口頭発表	異文化	グループ 個人	認識
	現地学習	体験・聞き 取り	異文化	グループ	認識の拡大
	事後学習	口頭発表 レポート	異文化と自己	個人	内在化・主張



2. 台湾事前研究について

(1) 目標

- ・台湾に関することを題材にして、興味・関心に応じてテーマを設定し、レポートにまとめ、口頭発表することによって、異文化について認識する。
- ・グループテーマをまず決め、その中で個別テーマを設定し、グループの協同力を生かして認識を深める。
- ・レポートに関しては、ねらい・内容・現地学習で学習すべきことを明確にして、現地学習をより充実させるための準備とする。

(2) 内容と日程

- 1月13日 (木) オリエンテーション
- 1月20日 (木) グループ決定 KJ法によって全体テーマと個別テーマ決定
- 1月27日 (木) ～ 2月16日 (水) 個別調査・レポート作成
- 2月17日 (木) グループ内発表会
- 2月24日 (木) 班別自主研修計画作成
- 3月22日 (火) ～ 26日 (土) 現地学習 (3月25日 現地学生と班別自主研修)
- 3月28日 (月) ～ 4月7日 (木) 事後レポート作成
- 4月8日 事後レポート提出
- 4月21日 (木) ～ 事後レポート発表会

(3) グループテーマと個別テーマ

KJ法によって、台湾に関する興味あることを出す。

→グルーピングする。(高橋先生作成のカテゴリーを参考) →グルーピングのうち一つを選び、グループテーマとする。→グループテーマの中で、各人が個別テーマを考える

*テーマは、班別自主行動を中心にして現地学習全体で見聞・体験、聞き取りできることを念頭に

(4) 事前研究レポート

1人A4 2枚 (40字×40字×2枚)

- ①研究のねらいと仮説 (そのテーマをなぜ研究するか。研究の結果、どのような事が予想されるか)
- ②校内における調査内容 (文献・インターネット)
- ③現地での調査内容 (体験・聞き取り・アンケート)

(5) グループ内発表会

グループ内で、事前研究レポートをもとに発表。

(6) 班別自主研修計画

グループごとの実際の現地調査内容 (行動計画・体験見聞計画・聞き取り計画・アンケート) を検討し、決定する。

3. 現地学習および事後学習

(1) 班別自主研修 見聞・体験 聞き取り 写真

(2) 事後レポート『64回生 台湾研究』

1人A4 (40字×40字) 4枚 写真貼付も可 (2枚程度)

- ・台湾現地学習のねらい
- ・事前研究で調査したこと
- ・台湾現地で調査したこと、分かったこと
- ・日本と比較して
- ・自己の見直し (国際社会の中でor 異文化体験により)

(3) 事後レポート発表会

(4) 協同性を生かしたテーマの決定

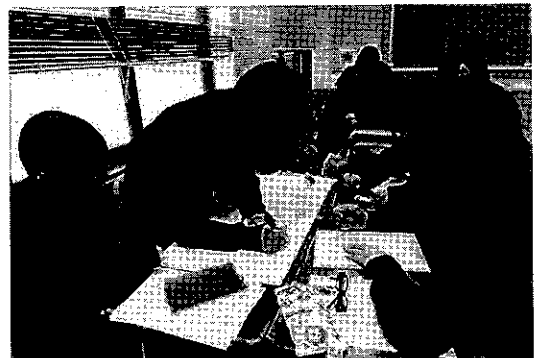
事前講義として、外務省職員による高校生講座を利用した講演会を実施し、本校教員により「台湾の歴史」「台湾の自然と文化」についての授業を行った。前者は、アジア全体と日本との関係を俯瞰させ、その中での日台関係を理解させる内容であった。後者は、「歴史」や「自然と文化」の知識を与えるだけではなく、テーマ決定のヒントになるような内容で行った。なお、昨年度は台湾ジャーナリスト酒井亨氏をテーマ決定以前にお招きし、講義を頂いたが、本年度は酒井氏の講義はテーマ決定後の2月7日となった。その講義内容は資料2に示したものであった。生徒の研究レポート作成の内容からみると、この講演は、生徒の研究に示唆的なものになっていたようである。

- 資料2 台湾ジャーナリスト酒井亨氏の講演概要
-配布プリント目次から-
1. 台湾とは 身近にある「台湾」
台湾に対して「よくありがちな誤解」
 2. 概略 基本データ 自然・生態 略史
政治・外交 経済 軍事 メディア
 3. 台湾人の親日
 4. 台湾人の日本大衆文化受容
 5. 台湾史は、日本近代史の一部、国際政治の焦点
 6. 戦前台湾で活躍した主な日本人
 7. 台湾の言語文化
 8. 台湾人の気質、庶民生活、日本との違い
 9. 参考文献・読書ガイド

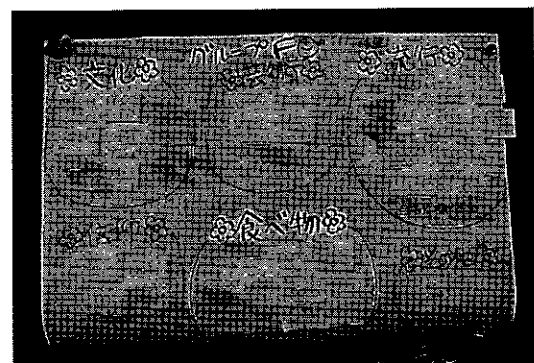
事前講義に関しては、前年度と同様であったが、大きく改善したのがグループ編成とテーマ決定へのプロセスであった。前年度までは、個別テーマをまず決定して、そののち類似のテーマの生徒でグループを編成させ、グループ内で発表し相互評価した。しかし、この形では十分に協同性を発揮できなかった。そこで本年度は、まず友人関係を基本に4~7人のグループを編成させた。そしてグループでブレーストミーングをすることによりグループテ

マを決定した。そのグループテーマに基づいて個別テーマを決定した。このグループは、そのまま現地学習の班別自主研修の班でもあった。

グループテーマ決定は次のような手順でおこなった。事前研究オリエンテーションで、教員が推奨テーマを紹介するとともに、それらのテーマの広がりについての説明も行った。(推奨テーマは資料3) テーマ決定は「生活と社会」で習得したKJ法的方法によるブレーストミーングによって行なった。まず、付箋紙で台湾に関して興味のあることを模造紙に貼らせる。次にその付箋紙を同様の内容のものごとにグルーピングさせて、それぞれの範疇ごとにタイトルを付けさせる。このタイトルの中からグループテーマを選択させる。最後に、グループごとにテーマとテーマ決定の理由を付箋が貼られた模造紙を利用して発表した。この手法により課題③の改善を図った。生徒はすでにこの手法には慣れており、極めてスムーズにテーマ決定がなされた。(テーマ決定ブレーストミーングの配布資料は資料4 作業報告用紙は資料5)



KJ法的方法によるテーマ選択



テーマ決定に向けてのグルーピング

《研究レポート 推奨テーマ》 五感で感じ、六感を働かせてみよう！！

台湾の政治風土とナショナリズム

- Q：政治に対する関心度・民主化の浸透度は日本と比べると？
- Q：親日派？ or 反日派？ 親中派？ or 反中派？
- Q：台湾は国際社会の中で、あるいはアジアの中でどんな役割をすべきか？
- Q：台湾にはどのような民族問題があり、どのように解決しようとしているか？

社会問題・環境問題に関する意識を比べてみよう。

- Q：ゴミの分別や省エネなど環境対策、温暖化対策に心がけていますか？
- Q：男女共同参画社会を進めるべきだと思いますか？
- Q：日本は捕鯨を止めるべきだと思いますか？
- Q：日本人は遠洋マグロ漁を控えるべきだと思いますか？

台湾の人々の暮らしは？ 日本と比べて見よう。

- Q：生活で最も大切にしているもの何か。“ゆとり？”“教育？”“お金？”“愛？”
- Q：どんな家庭が幸せだと思いますか？
- Q：日本では急激に進む少子高齢化が問題になっていますが、それについてどう思いますか？
- Q：どんな習いごとが一般的ですか？ 塾には行きましたか？
- Q：プロポーズするならどこがいい？
- Q：人気の名前は？

台湾の若者意識を日本と比べてみよう。

- Q：あなたの夢はなんですか？
- Q：あなたが今一番ほしいものは何ですか？
- Q：あなたが進学した理由は何ですか？（大学生に）
- Q：台湾の教育制度についてどう思いますか？ 良い点と悪い点。
- Q：日本に学びたいところ、はどんなところですか？また、その逆は何ですか？
- Q：今、流行の遊びは？
- Q：人気のデートスポットは？
- Q：流行りの携帯は？ どんなアプリが人気？
- Q：理想の死に方は？

地域別
世代別
男女別

台湾人の大衆文化は日本と比べてどう？

- Q：台湾の流行ファッションは？
- Q：台湾人の人気タレント・歌手・バンドは？
- Q：日本人で人気のタレント・歌手・バンドは？
- Q：台湾の人気番組は？ 台湾における“ベタ”なドラマとは？

台湾の伝統と文化・民族・信仰・芸能・音楽・風習etc

- Q：台湾の季節毎の伝統行事・祭事・お祝い事にはどのようなものがありますか？
- Q：台湾料理の特徴とそのルーツ、食の歴史、日本と中国の影響は如何に？
- Q：台湾の自然環境と食文化の関係、亜熱帯の特徴的な食材と調理方法
- Q：台湾の和菓子文化と金沢の和菓子文化、台湾のお酒・お茶と日本のお酒・お茶の比較
- Q：台湾人の信仰、民間伝承

資料4 総合的な学習の時間 「台湾現地学習」研究テーマを決めよう

2010.1.20

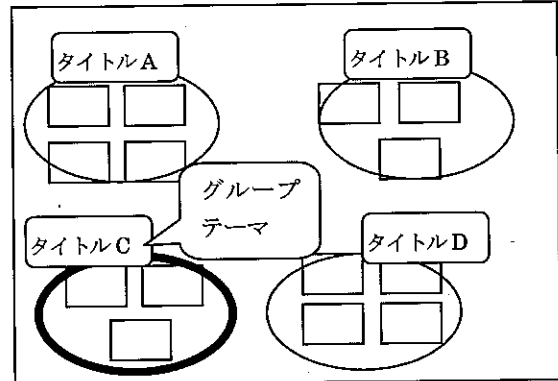
- (1) テーマ案をKJ法によるブレインストーミングでできるだけたくさんだそう。
- ①「批判するな」：他人の意見を批判してはいけない。批判があると良いアイデアが出ない。
 - ②「自由奔放」：こんなことを言ったら笑われるのではないか、などと考えずに思いついたことをどんどん言う。
 - ③「質より量」：できるだけ多くの案を出せ。
 - ④「連想と結合」：他人の意見を聞いてそれに触発され、連想を働かせよ。
 - ⑤付箋には抽象的なものでなく具体的・個別的なことを書きましょう。

(2) グループのテーマを決めよう。

- ①テーマ案を同様な内容のものでグルーピングする。
- ②それぞれのテーマグループにタイトルを付ける
- ③自分たちのグループのテーマを決める。

☆グループテーマを決めるにあたって

- ①メンバーの興味・関心から
- ②現地で調査・見聞・体験しやすそうなもの。
現地学生からインタビュー、アンケート調査できるもの。
- ③日本と比較したら面白いもの



(3) 個人のテーマを考えよう。

- ①グループテーマを検証するために個人の個別テーマを決める。
- ②本日は暫定テーマでよい。来週（1月27日）までに決定。

例) グループテーマ：台湾の交通

個別テーマ：地下鉄・バス・タクシー・自転車・交通規則・交通マナー

(4) グループテーマと個別テーマの発表（1班2分）

- 発表事項
- ①ブレインストーミングで出てきたテーマ案
 - ②グループで決定したグループテーマ
 - ③グループテーマ決定の理由
 - ④個別テーマ（暫定）

(5) 次回 1月27日（B組は1月28日）

- ①個別テーマ決定
- ②グループ内発表会の方法

資料5 台湾現地学習研究テーマ

メンバー		班長に○
本日の役割	司会	発表者
本日出たテーマ案		
グループテーマ		
グループテーマ決定の理由		
メンバー	個別テーマ（暫定）	

グループテーマ決定に際しては、次の3点を基準とすることを指導した。

1. メンバーの興味・関心の強いもの
2. 現地で調査・見聞・体験しやすいもの、
現地学生からインタビューやアンケート調査しやすいもの
3. 日本と比較したら面白いもの

個別テーマについても、生徒の興味関心を重視したが、個別テーマが、グループテーマを検証できるものになるようにと指導した。

資料6は平成22年度のグループテーマ・個別テーマ一覧である。テーマは様々であるが、教員が示した推奨テーマの影響が大きい。その結果、前年度に比して「食」の研究が減った。特徴としては、高校生らしいテーマが多いことである。音楽、ファッション、メディア、サブカルチャーなどである。また、教育に関するテーマも多かった。日台の経済交流が盛んであるということ、台湾のIT産業が発達しているとの情報をもとに、経済関係に関するテーマも少なくなかった。経済に関しては、身近に感じるコンビニを研究したのも数名いた。異文化をより認識ができる宗教や冠婚葬祭、マナー、価値観に関する研究もあった。台湾人の国民性や民族性に踏み込むテーマもあった。たとえば、「日常生活で大切にしていること」や「日本と台湾、それぞれの誇り」「尊敬する人、好きな偉人」「幸せを感じる瞬間」などは、大胆に国民性に切り込んだテーマであった。

資料6
平成22年度 グループテーマ・個別テーマ一覧
1年A組

A-1 グループテーマ 台湾の若者
個別テーマ・台湾の若者に人気のある音楽
・若者に人気のスイーツ
・台湾の若者に人気のパワースポット
・台湾の若者に人気のブランド
・台湾の流行ファッション
A-2 グループテーマ 食べ物
個別テーマ・台湾の伝統料理
・お袋の味
・お茶
・台湾のお菓子
・小籠包
A-3 グループテーマ 台湾の教育
個別テーマ・台湾の教育カリキュラム
・大学受験
・台湾の学校のクラブ・サークル
・台湾の教育制度
・台湾の高等教育の国際化
A-4 グループテーマ 台湾の国際性
個別テーマ・台湾の外国との付き合い方
・台湾の観光について
・台湾の外国人
・台湾の人々の観光事情
・台湾の兵役
・経済・産業と貿易
A-5 グループテーマ 台湾の庶民文化
個別テーマ・台湾の食文化
・台湾の伝説
・台湾人の仕事・風習
・台湾の宗教
・対日
・台湾での使用言語
A-6 グループテーマ 台湾で若者に流行の文化
個別テーマ・台湾のテレビ
・台湾の美容
・台湾のファッション
・台湾のゲームについて
・台湾の携帯電話
・台湾で若者に人気のスポーツ
・台湾で人気の音楽
A-7 グループテーマ 台湾に浸透している日本の文化
個別テーマ・アニメ
・日本料理
・日本の武道
・J-POPの進出
・ゲーム文化
・日本の家電
・日本のマンガ

1年B組

B-1 グループテーマ 台湾に進出している企業
個別テーマ・台湾と日本のゲーム産業
・携帯電話の事情
・日本製アニメ
・自動車産業
・コンビニエンスストア
・電子機器メーカー
B-2 グループテーマ 台湾の食文化
個別テーマ・台湾の経済・国民性と食との関連性について
・台湾の夜市料理
・コンビニで売っているお菓子
・台湾の食事マナー
・コンビニで売られている台湾料理
・台湾特有の調味料
・台湾の伝統料理
B-3 グループテーマ 台湾の食
個別テーマ・日本と台湾の麺文化
・鍋
・台湾のスイーツ
・台湾人の珍味
・飲み物全般について
・台湾の米料理
・点心について
B-4 グループテーマ 人
個別テーマ・台湾の日本語
・遊びスポット
・台湾と日本のファッション比較
・習い事
・金沢の認知度
・台湾のマナーと習慣
B-5 グループテーマ メディア文化
個別テーマ・台湾と日本の映画比較
・本について
・台湾のCM
・台湾のアニメ文化
・台湾における音楽
B-6 グループテーマ 流行～目指せ☆台湾の現代っ子
個別テーマ・台湾の芸能人
・台湾のファッション
・台湾の食べ物
・台湾の占い
・マッサージ・温泉
・台湾の音楽
B-7 グループテーマ 台湾人の価値観
個別テーマ・台湾人の恋愛観
・台湾人の金銭感覚
・教育
・台湾人のマナー

1年C組

C-1 グループテーマ B級グルメを調べよう
個別テーマ・台湾の水産物
・麺料理について
・野菜料理について
・～ご飯もの～
・スイーツ編
・肉料理について
C-2 グループテーマ 台湾の大衆文化
個別テーマ・台湾のタブー
・台湾の学生
・台湾の人々における美容
・太極拳
・台湾のファッション
・台湾の娯楽(ゲーム)
C-3 グループテーマ 台湾人の生活から見る国民性、民族性
個別テーマ・台湾の祭り
・金美齡から見る国民性
・日常生活で大切にしていること
・台湾人の食生活
・あなたの大切なものは何ですか
・台湾のIT事情
・台湾の仕事事情
C-4 グループテーマ 台湾の流行から見る文化
個別テーマ・台湾と日本の若者における音楽事情
・台湾のファッションについて
・占い
・台湾のスポーツ
・台湾の雑誌
・台湾の趣味とオタク
・台湾の夜市について
C-5 グループテーマ 日本と台湾の価値観
個別テーマ・日本と台湾、それぞれの誇り
・生活の中で、一番大切にしているもの
・尊敬する人、好きな偉人
・幸せを感じる瞬間
・台湾の人が考える将来
C-6 グループテーマ 台湾における教育
個別テーマ・台湾学生の食事
・台湾の若者の対日観
・台湾の教科書
・台湾の部活
・進学について
C-7 グループテーマ 台湾のティーンエイジャー
個別テーマ・台湾のティーンエイジャーのファッション
・台湾の携帯電話と学生
・アニメ・マンガ
・台湾の高校生の修学旅行
・台湾のメイク

(5) 探究型にするための事前研究オリエンテーション
研究レポートは、グループテーマに基づいて個人
テーマを設定し、個人で作成させた。

従来本校で行われて来た沖縄現地学習および台湾
現地学習の事前研究レポートでは、生徒に研究のね
らいを明確にはさせていなかった。したがって、事
前研究は調査した事実の羅列に終わることが大き
かった。また、研究のねらいが不明確であるが故に、
現地学習や事後学習と十分に結びつかなかった。そ
のため、研究が単なる文献やインターネット上の情
報の引き写しになることもあった。このような点を
改善するために、本年度は次の1～5の点を指導し
た。(生徒配布プリントは資料7)

1. 研究のねらいを明確にすること

とくに、グループテーマの中で自己の個人テーマ
がどう位置づけられるのか、また、なぜ、この個別
テーマに興味を持ったかを明示することを指導した。

2. 仮説を立てること

この事例を研究すると異文化のどのような点が見
えてくるのか、翻って、日本文化がどのように見え
るのか、という仮説を立てることを指示した。

3. 国内調査の方法

テーマに対する日本の状況と台湾の状況を比較す
るため、文献やインターネットで台湾のみならず、
日本の状況も調査させた。現地学習がより効果的
になるように「比較の物差し」を持たせることを意識
した。

4. 現地での明確な学習計画を立てさせること

現地学習では、まる1日、現地学生ガイドとともに
班別自主研修を行う。その自主研修で何をどのよ
うに体験するのか、何をどのように観察するのか、
また、現地学生ガイドに何をインタビューするのか、
またどのようなことをアンケートするのか、などの
計画を立てさせた。

5. レポートは教師の示した形式に準ずること

上記1～4のことに確実に取り組めるように、レ

ポートの形式を示し、これに準じてレポートを作成
することを指導した。(生徒配布資料は資料7)

なお、このオリエンテーションは、仮説を立て、
その仮説を実験・観察、資料やデータの分析により
検証し、結論に達する科学的方法を身に付けること
にも資するものになるよう意識した。これにより課
題①の改善を図った。

(6) 班内発表と班別自主研修計画

事前研究レポートについては、提出後、班内発表
会を行った。言葉にして発表することにより、発表
者が研究内容をより理解するとともに、班員の意見
を聞くことにより、現地での調査内容もより明確に
できると考えたからである。これにより課題③の改
善を図った。

グループテーマのもとでの個別テーマをさらに追
究するため、現地学習の班別自主研修の計画を立て
させた。計画内容は3つ。まず見学場所。2つ目は
見学場所における体験・観察内容。3つ目は現地学
生ガイドへのインタビュー事項である。

自主研修計画の具体的事例は資料8である。この
グループ(A-3)の共通テーマは、「台湾の教育」。
グループでの見学地は、台湾大学と台湾師範大学、
及び学生街。大学では学食や図書館を見学する。予
備校街の観察も予定しており、これも実行された。
現地ガイドへのインタビュー内容は、「教育の国際
化」について、「受験」について、「教育制度」につ
いて、「クラブ・部活」など、個別テーマに基づいて、
各自が策定した。

現地学生ガイドに対する調査アンケートも各班3
つずつ提出した。このアンケートは、事前に台湾に
送られて、学生ガイドが回答し、現地学習時に生徒
のもとに提示できるようにした。資料9はA-3の
アンケート項目「台湾の教育カリキュラムについて
どう思いますか」に対する現地学生ガイドの回答で
ある。

1. 研究のねらいおよび仮説

①なぜ、このテーマの研究をするのか。

- ・グループテーマの中での個人テーマの位置づけ。なぜ、個人テーマに興味を持ったか。

②仮説 cf 科学的方法 仮説→検証（実験・観察、資料やデータの分析）→結果・結論

- ・この事例を研究すると異文化のどのような面が見えてくるか。
- ・この事例を研究すると日本文化があらためてどのように見えてくるのか。

2. 国内調査：文献・インターネットで集められた事実・情報

①テーマに対して、日本と台湾の状況を比較するために、日本の事実・情報を調べる。

ex 台湾のB級グルメ⇔日本のB級グルメ 味・値段・材料・販売方法（店）

比較の物差しをもって現地学習に臨もう

②文献・インターネットで集められる台湾の情報

3. 現地での学習計画

- ・現地での観察・体験できそうなこと（班別自主研修の仕方も念頭において）
- ・現地学習にインタビューすべきこと
- ・現地学生にアンケートすべきこと

4. レポートの様式

グループテーマ
個人テーマ
クラス 氏名

1. ねらいと仮説

2. 国内調査内容
①日本での状況・事実

①台湾での状況・事実

3. 現地での学習計画
(箇条書きでも可)

- ・A4で2枚 余白は上下25^{mm}、左右25^{mm}、40字×40字 文字10.5ポイント
- ・提出日 2月16日（水）厳守

5. 今後の予定

- 2月17日（木）：個人レポートをもとにグループ内発表
- 2月24日（木）：それぞれの個人レポートをもとに班別自主研修計画

資料8 班別自主研修計画

A 3	
班別テーマ	台湾の教育
8:50 10:00	故宮博物院 = = = 士林駅 + + + 中正紀念堂駅 + + + 公館駅…国立台湾大学 バス MRT(淡水線) MRT(新店線) 徒歩 (1.5H)
	…学生街散策…国立台湾師範大学…古亭駅 + + + 中正紀念堂駅 + + + (1.5H) 徒歩 (1H) 徒歩 MRT(新店線) MRT(淡水線)
	19:00 台北車站駅…駅周辺散策(夜市含む)…シーザーパークホテル 徒歩 (1.5H) 徒歩
調査することなど	
①現地学生にインタビュー	
②現地の大学見学(学食付き)+大学生にインタビュー	
③台湾大学の図書館に行く+国立台湾師範大学	
④教育に関する資料入手(新聞、統計、雑誌)	
⑤台湾駅前の予備校街に行く	
[インタビュー]	
【教育の国際化】①あなたの周りに留学生がいますか	
②留学生がいたら雰囲気は変わりますか	
【受験】①受験は大変でしたか	
②台湾の受験制度についてどう考えますか	
【教育制度】①学校は何時から何時まで?	
【クラブ・部活】①高校の時、何の部活?	
②何かユニークな部活がありますか?	
③塾は行ってましたか?	

資料9 7. 台湾の教育カリキュラムについてどう思いますか (A-3)

- 女 教材は昔と比べて簡単になりました。昔のカリキュラムの方が良いと思います。
- 女 多元的でいいと思います。
- 男 日本と大体同じだけど、何と云えば、サークルに参加する時間があまりないんだ。
- 男 筆記テストは人生に一番重要なことです。
- 女 競争が激しくなってきました。
- 女 進学主義だと思います。
- 女 知識教育のレベルが下がる傾向にあると思う、
- 女 大変だと思う。
- 女 なんか子供たちに圧迫しすぎ。
- 女 改善する面がありますが、いい面もあります。
- 女 台湾の教育は成績を重視しすぎてもっと道徳的カリキュラムを重視するとよい。
- 女 あまりよくないと思います。
- 男 制度を変えるのが常に繰り返す。
- 女 意見がない
- 女 何のために勉強するのかわかりません。
- 女 カリキュラムの改善のところがまだあります。
- 女 ちょっと厳しいと思います。
- 女 まあまあ
- 女 いいです。
- 男 退屈な授業だと思います。

(7) 「台湾現地学習直前」オリエンテーション

「台湾現地学習直前」オリエンテーションは、旅行上の諸注意と「総合的な学習の時間」としての「台湾現地学習」のための諸注意の二本立てで行った。この直前オリエンテーションに備えて、生徒の事前

研究レポートを班員数だけ印刷して、班ごとに冊子にして配布した。この冊子の末尾には調査のためのメモ欄も付けた。班別自主研修においてこの冊子を携帯することを指示した。また、現地での調査計画や現地学生へのインタビュー計画の確認を促した。

(8) 「台湾現地学習」日程

	月日	現地時間	発着地	機関	日程・見学地等
1	3月22日 (火)	7:40 8:00 12:50 13:50 14:20 15:45 16:05 17:00 18:00 20:00	金沢駅集合 金沢駅出発 浄瑠璃寺着 浄瑠璃寺発 興福寺着 興福寺発 唐招提寺着 唐招提寺発 コスモホール ホテル	貸切バス	金沢駅西口集合 昼食：弁当（車中） 夕食 サンルート関空 大阪泊
2	3月23日 (水)	9:00 9:20 12:55 15:05 17:10	ホテル発 関西空港着 関西空港発 桃園空港着 ホテル着	貸切バス エバー航空 BR2131	出国手続き 夕食後台北101へ 台北泊
3	3月24日 (木)	8:10 19:50	ホテル発 ホテル着	貸切バス	烏来（ウーライ）視察 （トロッコ，烏来瀑布） 九份 台北泊
4	3月25日 (金)	8:20 19:00 20:50	ホテル発 シーザーパーク ホテル着		班別グループ研修（各班5～8名程度， 台湾大学生が同行，故宮博物院から グループ研修） 夜 立食パーティー 台北泊
5	3月26日 (土)	5:30 6:15 8:30 11:55 13:15 18:40	ホテル発 桃園空港着 桃園空港発 関西空港着 関西空港発 金沢駅西口着	BR2132 (エバー航空)	出国手続 入国手続 解団式の後，解散

飛行機の搭乗時間の都合で、1日目は大和研修となっている。班別自主研修は4日目。故宮博物院で現地学生ガイドと待ち合わせ、夜の立食パーティー

まで同行する。この間、生徒はグループテーマ、個別テーマに基づき、調査、観察、体験するとともに、現地学生ガイドからの聞き取りも行う。

(9) 台湾での現地調査状況

4日目の班別自主研修では、生徒は、グループテーマ、個人テーマにもとづいて班単位で行動した。多くは、台北最大の繁華街である西門町を見学した。あるものはショッピングセンターを、あるものは書店を、CDショップを、コンビニを、電気量販店を、現地ガイドとともに調査した。

その中で様々な発見もした。例えば、電気量販店の近所に電子機器附属品を売る店があることに気づき、ゲーム本体を改造することが広がっていることを発見した。また、コンビニでは飲み物が多く売られ、逆に日本ではレジ隣に在るホットスナックがないことに気づき、それは台湾では飲み物の自動販売機が普及していること、食べ物に関しては露店が多くあることが関係していると発見した。

そのほか、教育をグループテーマとした班は、台北大学や台湾師範大学を訪れていた。また、街角でアンケート調査をした班もあった。中国語が聞き取れない苦勞をしつつ、また、台湾人と中国人観光客の区別がつかない中、英語を交えてアンケートを取っていた。自動車をテーマにした生徒は駐車場において自動車の車種とメーカーを調査していた。

とくに、現地学生ガイドからの聞き取りは充実していた。例えば、日本の台湾旅行案内には台湾マッサージが非常に宣伝されており、繁華街でもその看板をよく見るのであるが、聞き取りから、実は利用するのは観光客ばかりであって、台湾人はあまり利



台湾アンケート調査中

用しないことなどを知った。また、日本では台湾の点心といえば「小籠包」であるが、現地学生に対するアンケート調査では、学生が「小籠包」を食べるのは基本的には一カ月に1回以下であるとも分かった。



実際にマッサージを体験する生徒



現地学生ガイドと

(10) 台湾現地学習レポート作成

現地学習帰国の2日後に台湾レポート作成のためのオリエンテーションを行った。(生徒配布資料は資料10)

ここで、とくに指示したのは、レポートの書き方である。まず、研究のねらいと仮説を明確にすること。次に国内での調査事項をまとめること。ここまでは、すでに事前研究で行われているので、それを修正して使用することを指示した。次に現地調査事項を記させた。具体的には、観察、体験したこと、調査したこと、現地学生ガイドから聞き取ったこと、現地学生に対するアンケート内容などである。この

1. 研究のねらいおよび仮説 (済 変更可)

①なぜ、このテーマの研究をするか。

②仮定 cf 科学的方法 仮説→検証 (実験・観察・資料やデータの分析) →結果・結論

2. 国内調査：文献・インターネットで集められた事実・情報 (済 変更可)

①テーマに対して、日本と台湾の状況と比較するために、日本の事実・情報を調べる。

②文献・インターネットで集められる台湾の情報

3. 現地での調査内容 (写真・図表2～3枚を含む)

- ・現地での観察・体験したこと
- ・現地学生インタビューからわかったこと
- ・現地学生アンケートからわかったこと

4. 考察

- ・日本と比較して、共通性と異質性など、わかったこと

5. まとめ

- ・台湾現地学習を内在化する。

(自己の考え方や見方の変化。将来に向かって現在の自己がすべきこと、など自分が考えたことを記す)

6. レポートの形式

<p>個人テーマ クラス 氏名</p> <p>1. ねらいと仮説 (済)</p> <p>2. 国内調査内容 (済)</p> <p>①日本での状況・事実</p>	<p>②台湾での状況・事実</p> <p>3. 現地調査 (新)</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">写真</div>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">写真</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">図表</div>	<p>4. 考察</p> <p>5. おわりに</p>
--	---	--	------------------------------------

- ・ A4で4枚 余白は上下25^{mm}、左右25^{mm}、40字×40行 文字10.5ポイント
- ・ 提出日 4月15日(金) 厳守 (担当教員で印刷→業者に製本発注→4月27日納品)
- ・ 提出先 旧1A塚田 旧1B山本 旧1C高橋

7. 台湾現地学習研究発表会 (旧クラス)

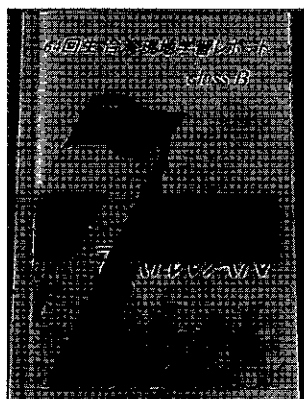
4月28日(木) 5月7日(土) 5月21日(土)

※発表方法 ・1グループ 20分以内 (一人3分程度)

- ・ 写真 (1グループ20枚程度) をプロジェクタで示しながら説明
- ・ 発表内容 (1) ねらいと仮説 (2) 現地での調査 (3) 考察
(4) 台湾現地学習を経て考えたこと

時、写真を2,3枚貼付することとした。それは調査事項を文章のみならず写真でも語らせるためである。考察では、必ず日本と台湾の状況を比較することとした。比較することにより、より台湾文化を理解でき、翻って日本文化も理解できるからである。最後に、まとめでは、台湾現地学習や台湾研究を通して、自己の考え方や見方で変化したこと、将来に向かって現在の自己がなすべきことなど、自分が考えたことを記すこととした。この経験を内在化し、さらに自己の在り方生き方を考えさせるためである。これにより課題④の改善を図った。なお、このレポートの書き方は、一般的な手法であり、今後、大学でのレポート作成にも役立つことを念頭に置いた。

提出日は、春季休業が終わった、新学年開始後とした。提出されたレポートは、1年生時のクラス単位で右の写真のように冊子とした。



(1) 台湾現地学習研究発表会

発表会は2年生の4月～5月にかけておこなったが、発表クラスは1年生のクラスで行った。発表会は、「台湾現地学習レポート」を用いて、2時間連続で3回行った。発表時間は一人3分、グループ単位で発表する。発表内容が分かりやすくなるように写真をスクリーンに映しスライドショーで示しながら発表することを指示した。

発表者以外には「台湾レポート評価票」を用いて、それぞれの発表を評価させた。「評価票」の記入内容は次の3つである。

1. それぞれの個人発表について2行で評価して下さい。
2. 本日の発表会の中で最も良かったレポートは

どれですか。良かった理由も含めて答えて下さい。

3. 本日の発表会で分かったことを書きなさい。

1については、2行では不十分であるが、発表数が多数で時間も限られているので2行とした。2は、最も良かったレポートを指摘することにより、到達レベルを再認識し、今後に生かせるようにと考えて記入させた。この相互評価は、「生活と社会」以来、継続して行ってきた評価方法をここでも実施したものである。

3. おわりにー成果と改善点ー

Y・Y君のレポートより

5. 終わりに

ある事柄について調べるとき、インターネットや文献を使って調べることも大切なことだが、実際に目で見て、肌で感じる事が大切であるということに改めて実感した。今まではある事柄について一方からしかあまり考えることができなかったが、今回の活動を通して、複眼的に考えることができるようになったと思う。これから世間に出ていく中で、外国人と会話をする場面が増えていくと思うが、今回の台湾現地学習を通じて、異国の人とコミュニケーションをとる時に大切なこと等を知ることができたので良かった。他国の人たちとうまくやっていくためには、まず他国と自分たちの国の文化等の違いをしっかりと理解し、お互いにそれらを非難せずに認め合うことが重要だと感じた。まず、これから自分がしていかなければならないことは、幅広い分野の知識を蓄え、使える人材になるために勉学に励むことであると思った。また勉強だけでなく社会の常識を身につけ人として尊敬されるような人になるために、当たり前のこと以上のことを普通にできるように心掛けていきたいと思った。今回の貴重な体験を生かして、これからの生活を豊かなものしていきたいと思う。

これは、「台湾の文化」というグループテーマのも

とで、「台湾の夜市」を個別テーマにした生徒レポートの「終わりに」である。この生徒は、実際に士林夜市に行き、臭豆腐の強烈なおおいを体験し、日本とは異なるかき氷のトッピングに驚いた。そして日本での調査と台湾での体験を踏まえて、考察では和食と台湾料理を比較した。その結論は、「和食は…いずれも素材のよさを引きたてながら芸術品とも言われるまでに仕上げられている」のに対し、「台湾料理は…庶民的な家庭料理を基本として発達してきている」ということであった。また、味についても、体験に基づいて台湾料理は他の中華料理とは異なり、「比較的淡白で素朴かつ繊細な味付けの料理が多い」という認識に至った。

これらの体験を踏まえて、同生徒はいくつかの重要なことに気付いた。その一つが、体験の重要性である。二つ目が複眼的思考、三つ目がコミュニケーションの重要性である。また、異文化理解についても「文化等の違いというものをしっかりと理解し、お互いにそれらを非難せずに認め合うことが重要であると感じた」というレベルに達した。その上で、勉学への意欲を高め、自らの人格研磨の必要性を意識した。まさしく自らの在り方生き方を顧みただけである。

これはこの生徒に限ったことではない。多くの生徒が、台湾現地学習の事前・現地・事後学習を通して、学び方やものの見方を学び、コミュニケーションの重要性を感じ、異文化との関係を考え、翻って日本文化を見つめなおしていた。

今年度の台湾現地学習の改善は「探究化」という意味で、また、「自己の在り方生き方を考えさせる」という意味で大きな成果をあげることができた。このような成果を上げることができた理由として、次のようなことがあげられると考える。

①「台湾現地学習を探究的なものにする」という方針を教員が明確に生徒に示したこと。それを生徒

に意識させるため、1年生前半の「生活と社会」との関連を明確にしたこと。

②事前・現地・事後学習の一貫したカリキュラムを組めたこと。

③レポートにおいて、「ねらい」「仮説」「国内での調査」「現地での体験・調査」「考察-日台比較」「まとめ-体験を内在化する」という方法をしっかり提示したこと。

④グループの構成の在り方を人間関係に求めることにより、協同性を發揮できたこと。

ただし、課題も残っている。現在のカリキュラムでは、台湾現地学習までは1年生のクラスであるが、事後学習の段階ではクラスは新しく2年生のものになる。今回は、事後学習に関しては旧クラスでレポート発表会を行った。しかし、この間のモチベーションの低下には否めないものがあつた。クラス替えはやむを得ないが、学年を跨いでカリキュラムが進行する中で、いかに最後までモチベーションを保つかが課題である。

末筆ではあるが、今回の台湾現地学習の改善について、文部科学省田村学教科調査官から貴重な御示唆を頂戴した。この場を借りて謝意を述べたい。